The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	TA (Teaching Assistant) の声　サイバーメディアフォーラム no.16　CALLシステム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2015, 16, p. 40-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70396
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

JTA を経験して

泉谷　律子（言語文化研究科　言語文化専攻）

1.　はじめに

2014 年前期、CALL 教室で行われた基礎工学部の英語 reading 授業の TA をさせていただきました。前年度、この授業を見学させていただいたことがきっかけでぜひ学ばせていただきたいと思っておりましたので、貴重な機会となりました。以下、授業の様子と TA として心がけたことを述べます。

2.　授業の様子

授業は、英語のネットのニュースを読んで各自興味のあるトピックを選び、その中で学んだ単語の意味を調べ、要約したものを CLE に提出したり、授業中 3～4 名のグループに分かれてまとめたニュースをお互いに英語で読みあったり、パワーポイントで作成してきたスライドを見せながら、クラスの前で英語でのプレゼンテーションの練習を積み重ねたりして、中間発表と最終発表でその成果を披露するという内容です。

授業の開始時に学生は自分のパスワードでログインし、それが出欠の代わりとなります。初めの 2,3 回はログインできない学生がいたりしましたが、次第に皆が慣れてきてスムーズに始まるようになりました。また小グループに分かれて活動するということもこれまであまりなかったのか、先生が声掛けされてもすぐには動けない様子でしたがそれも後半になるととまどうこともなく自分から席を代わったりしていました。パワーポイントの作成はアニメーションを使ったり、動画を入れたり、You Tube と繋いだり、かなりうまく工夫していました。前期が終わるころには、程度はさまざまでしたが、全員がそれぞれ興味ある内容を英語とスライドで表現できるようになっていて、かなりの進歩が見られました。司会進行を担当した学生は、教わった通りに英語で進行をしてよい経験になったようでした。

3.　心がけたこと

先生が TA に期待されたのは機器の操作と言うよりは、小グループに分かれた時に中に入って英語で助けたり、プレゼンのときに学生にヒントをあげたり、最後に感想を述べたり、主に英語で話すことや堅い雰囲気を和らげたり、励ましたりすることを求められていると思ったので、そのようにするよう試みました。ただ、どこまで学生にかかわっていいのかというのは、それぞれの TA にまかされていたので難しかったです。学生によっては自分が入ると緊張したり、監視されていると思ったりするのかなあ、と感じることもあり、行き詰っているグループに入ると笑顔で答えてくれたりするので、入ってもいいのか、と感じたり、この仕事は TA のパーソナリティによって多様なやり方があるように思いました。授業の終わりに、ほぼ毎回、TA から学生へのコメントを求められるのですが、回数が重なると同じようなコメントしかできず困りました。そこで、最終日には前の週の直後に自分で書き留めておいたコメントを用意してそれを見て、有益なことが言えるように心がけました。もっと早いうちからそのようなことをしていればよかったと悔やまれます。

機器の操作は特に頼まれてはいなかったのですが、個人 PC の画面が大画面に反映しなかったりして学生が困った時に、いちいち先生に来ていただかなくても自分がもっと勉強してやらなければ、TA としての役割を果たせないと思ったのがもう一つの反省点です。

4.　まとめ

先生の授業の進め方、学生たちの反応、TA としての動き方だけでなく、英語、IT の利用の仕方が

とても勉強になりました。貴重な機会ですので、
できるだけ多くの学生、院生、特に、今後教育に
携わることが予想される方は、ぜひ TA として経験
を重ねられることをおすすめいたします。